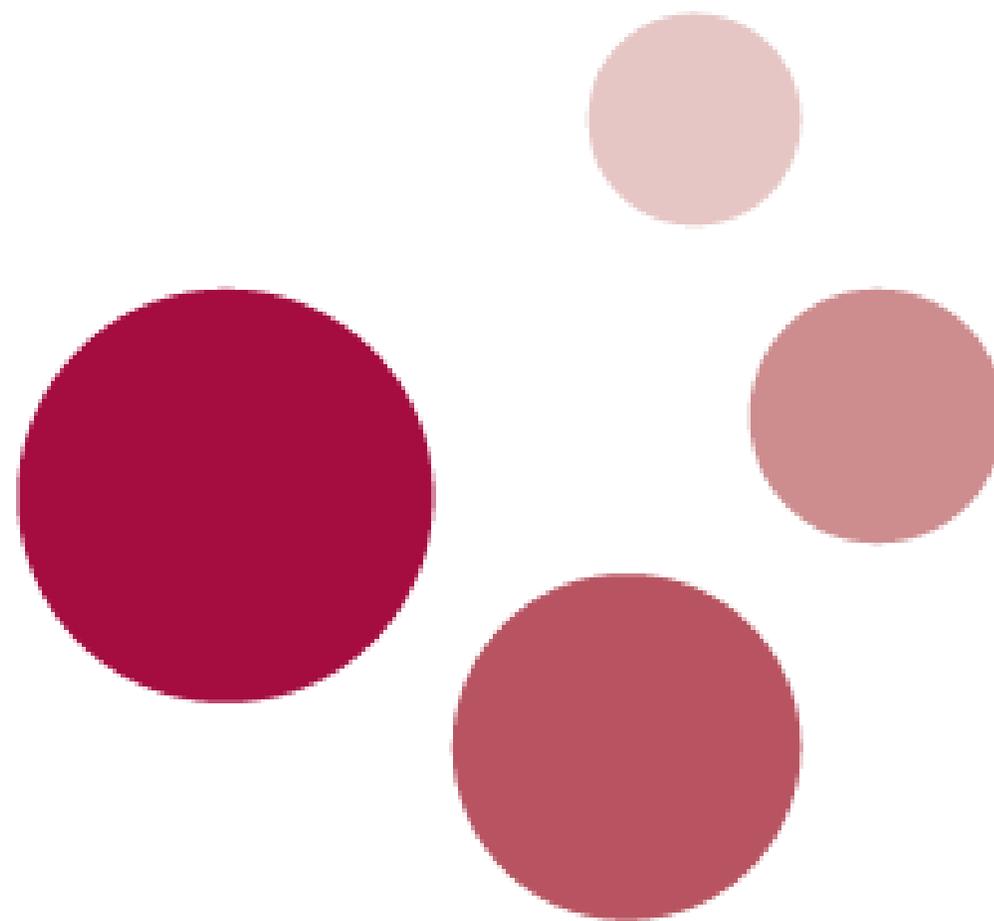


# <2018年3月期 第4四半期> 決算説明会補足説明資料

データセクション株式会社

2018年5月11日

証券コード：3905





# 目次

1. 全体サマリー
2. 2018年3月期 実績
3. 2018年3月期の振り返りについて
4. 2019年3月期の取り組みについて
5. 長期経営方針について
6. ビジョンとミッション



# 1. 全体サマリー

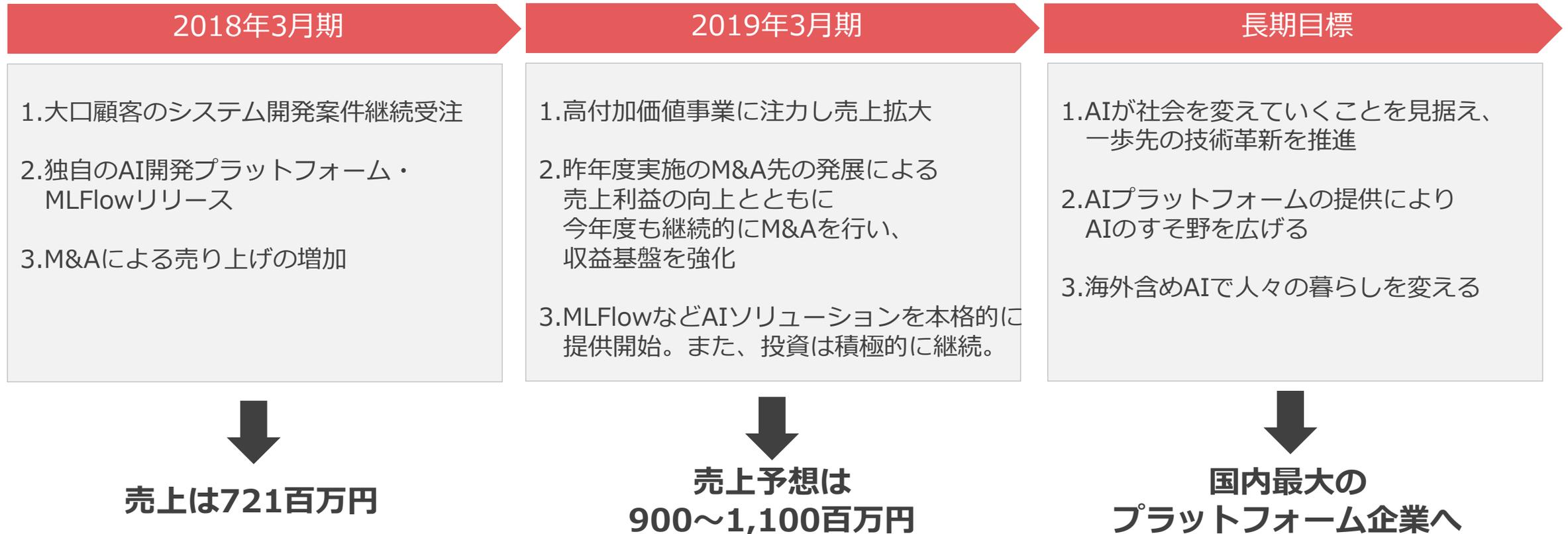
# 1.全体サマリー

4

- 2018年3月期4Qは四半期ベースで売上316百万円（前年比177%）、営業利益54百万円（前年比184%）と、いずれも過去最高を達成。また、2018年3月期通期で売上高は127百万円の増加、対前年比121%（+21%）。

**⇒事業投資やM&Aなど、グループ全体における投資戦略が売上利益を押し上げた。**

- 2019年3月期も戦略的投資を積極的に実施。





## 2. 2018年3月期 実績



## 損益計算書／連結（4Q実績）

- 2018年3月期4Qは四半期ベースで過去最高の売上316百万円を達成。（過去最高だった2017年3月期4Qの177%（+77%））
- 営業利益もクォーターベースで過去最高利益を達成。
- 営業利益は対前年比184%（+84%）の54百万円、経常利益は対前年比224%（+124%）の57百万円。

（単位：百万円）

	2017年3月期 (4Q)	2018年3月期 (4Q)	増減額	前年比
売上高	178	316	138	177%
営業費用	148	262	113	176%
営業利益	29	53	24	183%
経常利益	25	56	31	223%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	5.7	23.2	17	402%



## 損益計算書／連結（通期実績）

- 通期では、売上高は127百万円の増加、対前年比121%（+21%）の結果となった。
- 営業費用については、人材採用および新規事業開発への投資を行った結果、対前年比131%（+31%）となった。

（単位：百万円）

	2017年3月期 (通期)	2018年3月期 (通期)	増減額	前年比
売上高	593	721	127	121%
営業費用	514	676	161	131%
営業利益	79	45	-34	57%
経常利益	71	45	-25	64%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	36	16	-20	44%



## 貸借対照表／連結（通期実績）

- ・ 流動資産の増加は、現金及び預金の増加541百万円であり、その主な要因は新株予約権による資金調達である。
- ・ 固定資産の増加は、投資有価証券の増加96百万円が、主な要因である。

（単位：百万円）

		2017年3月期 （連結）	2018年3月期 （連結）	増減額
資産	流動資産	865	1,574	709
	固定資産	310	491	181
	資産合計	1,175	2,066	890
負債純資産	負債合計	102	235	133
	純資産	1,073	1,830	757
	負債純資産 合計	1,175	2,066	890



### 3. 2018年3月期の振り返りについて



## 主要トピック

1. MLFlow a版のリリース
2. AI事業の展開
3. インバウンド市場の拡大に伴う外国人行動分析事業の売上向上
4. KAGネットワークソリューションズ（現ディーエスエス）のM&Aにより収益増
5. システム開発の高収益化が進捗



# 1. MLFlow α版のリリース

## ■ MLFlowとは

- ・機械学習プロジェクトを大幅に効率化することに特化したプラットフォームサービス（PaaS）。
- ・多くの画像認識・自然言語処理プロジェクトで経験したノウハウが詰まった機能群と初心者でも使えるオープンソースの公開。
- ・MLFlow上のプロダクトの競争力を継続的に向上するエコシステム

## ■ α版導入実績

- ・大手企業との協働によりソリューション開発他、複数プロジェクト実施。
- ・β版リリースに向けた機能追加と改善を継続。

### ソリューション開発での導入

#### 大手金融機関様

書面の内容を構造化データとして取り込む

#### 大手飲料メーカー様

SNSの画像データを用いて利用シーンを分析

### 協働で開発

#### ドローン事業者様

太陽光発電施設をドローンで空撮し異常検知

その他・導入実績プロジェクト数 15件



## 2.AI事業の展開

### ■ 文章自動生成

- ・ AIによるアイドルtwitterアカウント投稿代行サービスを開始。
- ・ チャットbotによる機械学習型ペット対話サービスをハウスコム社とリリース。
- ・ その他、新聞記事自動生成などの案件を進める。

### ■ 掲示板監視

- ・ ディープラーニング技術を活用したリアルタイムのスパム投稿 監視ソリューション・サービス提供を開始。

### ■ AIファンド

- ・ 2018年2月、3月の急落相場の中でAIエンジンの予測が奏功し、堅調に推移。TOPIXを上回る運用成績を残すことができた。



## 3.インバウンド市場の拡大に伴う外国人行動分析事業の売上向上

### ■ 海外SNS分析事業の売上高の前年対比は1.8倍

- ・ 観光庁、JNTO（日本政府観光局）、地方自治体、その他省庁からの大型案件を受注。
- ・ 海外から国内へのインバウンド関連のみならず、日本から国外へ展開する事業会社のアウトバウンド案件も増加し、リピート顧客が増えている。

#### 背景

- ・ **増え続ける訪日観光客により、海外SNS分析・コンサルティングサービスの需要が伸びている。**
  - 2017年（1月～12月）は、前年比19.3%増の2,869万人と過去最多。
  - 官公庁や自治体を始めとする公募案件における売上の増加。
- ・ **ソリッドインテリジェンス独自の強みにより、高い評価を得られている。**
  - 多言語（欧州・アジアをはじめとした計8カ国語）に対応可能な分析官のメンバーを擁している。
  - レポート品質について高い評価を得ており競合他社からの乗り換え案件を受注できている。



## 4. KAGネットワークソリューションズのM&Aにより収益増

### ■ KAGネットワークソリューションズ（現ディーエスエス）とは

- ・ 事業の中心は、金融系インフラ基盤の構築・設計、運用等。
- ・ システム運用保守の業界で長年現場を支えた実績により、現在も安定した売り上げで推移。

### ■ ディーエスエスによる収益への貢献

2018年1月、株式を取得し連結子会社化



金融系インフラ基盤の構築・設計、運用等による安定的な収益を連結

データセクション代表の平本がディーエスエスの代表に。シナジー効果による事業拡大を推進。



## 5. システム開発の高収益化が進捗

- ・ Saas販売のみならず、顧客に合わせてカスタムメイドしたデータ解析ツールを開発。
- ・ データ利活用のコンサルテーションを実施することで、上流から下流まで一貫したシステム開発の提供が可能。
- ・ ウォーターフォール型ではなく、プロトタイピング手法でスピード感のある開発を行う点、ご評価を頂く。

### ストック型売上モデルが拡大

データの収集から解析まで顧客の要望に合わせた開発と運用を行う

データを業務に活かすためのコンサルテーションまで含めて実施

大口顧客の業務改善に深く入り込みリピート案件も含め安定的に受注

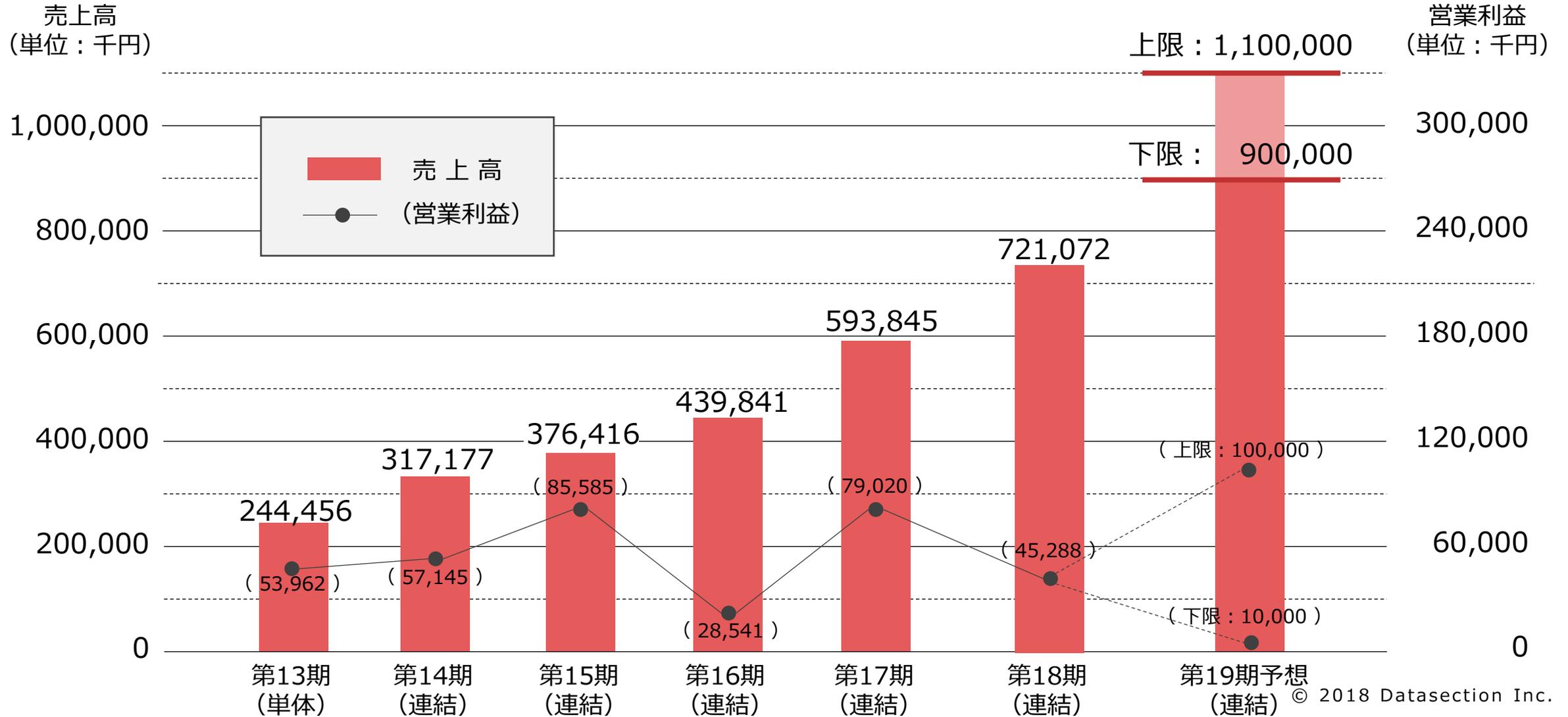
### 継続的な売上増を実現



## 4. 2019年3月期の取り組みについて



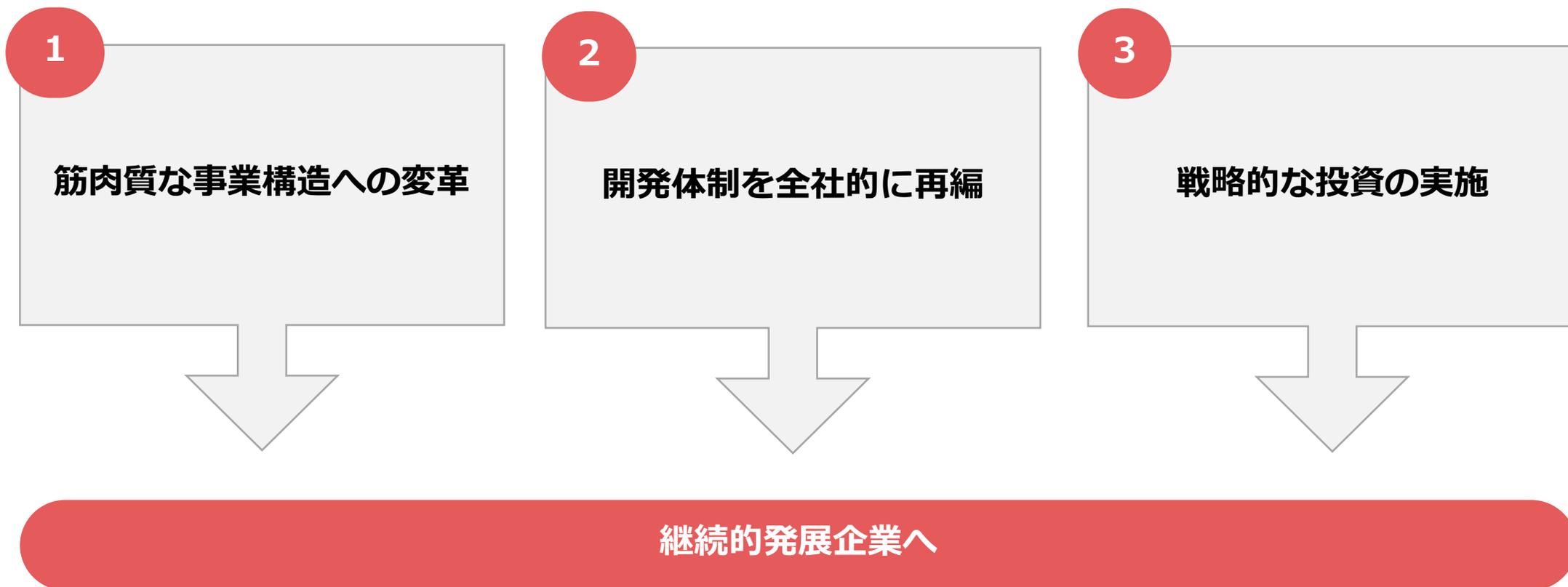
## 2019年3月期の売り上げ予測





## 2019年3月期の活動方針

機械学習やIoT分野での当社の強みを生かし、さらなる売上利益の向上を目指す





# 1. 筋肉質な事業構造への変革

データセクションが保有する、データ解析やAIプラットフォームにおける技術的優位性を活用。

## 1-1. AI開発支援領域のサービス事業化

- AIプラットフォーム「MLFlow」のβ版リリース。
- 個社対応案件では、基本形をカスタマイズすることで対応し、高利益率化を図る。

## 1-2. ディーエスエスの売上向上に尽力

- ディーエスエスでの収益をAI投資環境整備に向けて振り分けていく。
- 顧客からの需要は大きいため、リソースの手当により、更なる業務拡大が見込まれる。

## 1-3. 高収益が見込めるストック&スケール型・新規事業の立ち上げを推進

- データ解析事業のみならず、データ解析を『活用』した事業の展開に注力。

## 1-4. システム開発：高利益率の既存大口顧客に注力

- システムの個社対応案件については、引き続き大口顧客に注力。



## 2. 開発体制を全社的に再編





### 3. 戦略的な投資の実施

借り入れも含めた資金調達を行い、AI事業における事業展開を狙う。

#### 資金調達

自己資本  
+  
借り入れ

#### 事業投資 (M&A含む)

×AI技術

#### グループ全体の 事業発展

#### Action

キャピタルのみならず、借入を含めて資金調達を実施  
レバレッジを効かせた積極投資

#### Target

- ①事業シナジーがあり大幅な成長を明確に期待できる事業体
- ②売上利益の増大を見込むことができる事業体

#### Growth

AIなど新規事業への投資で事業拡大  
労働集約型のレガシー事業においてAIを活用することで成長企業へ転換させる。



## 5. 長期経営方針について



## データセクションが考える未来

どの業界も「IT化」が進んだように  
「機械学習」を活かしたビジネス開発をしていくことが求められる

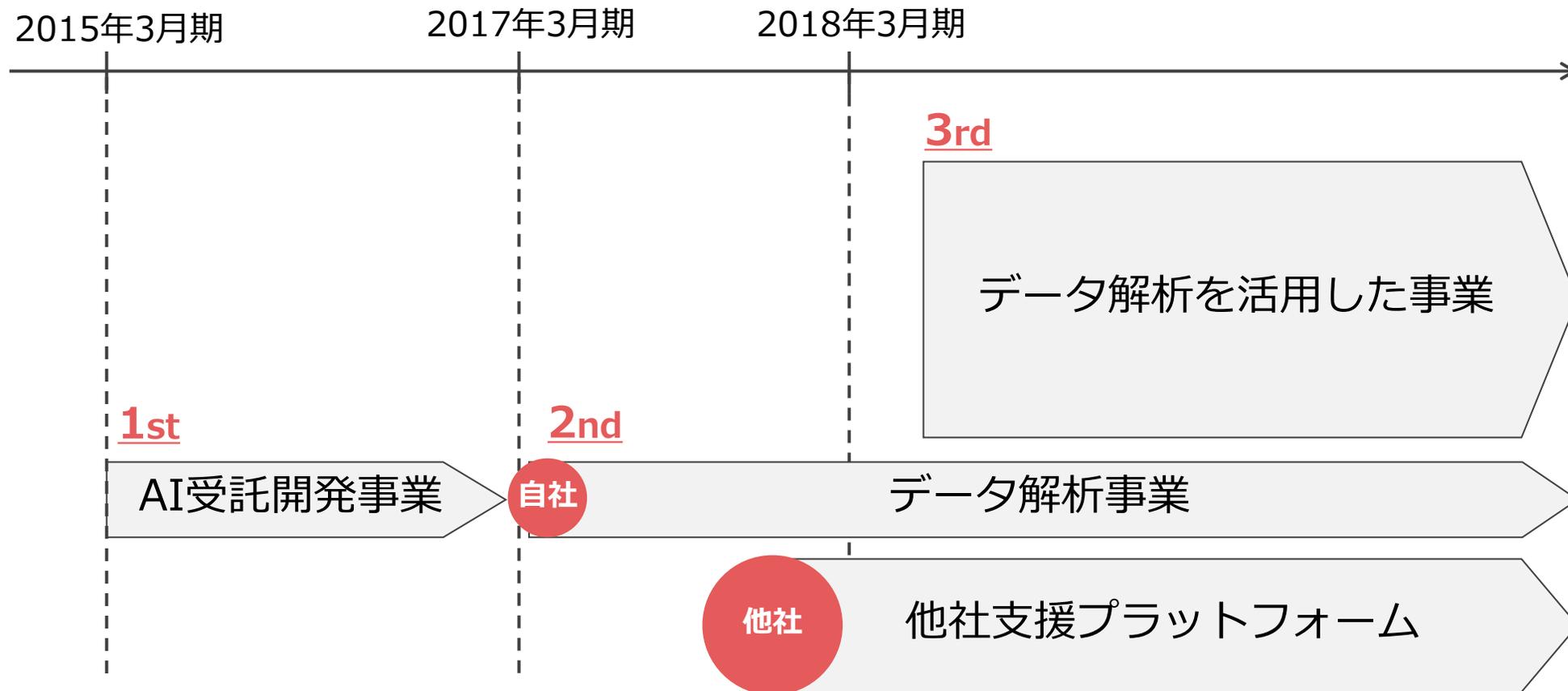
# 「機械学習前提社会」

- IoTの世界で解析するデータが大容量化・多様化する時代
- 大容量・多様化したデータを解析するプラットフォームが生まれる時代
- データを最適化するためにアルゴリズムが構築される時代
- 個人や事業へ機械学習結果が最適化される時代



# データセクションが実施する「AI・深層学習」事業の展開

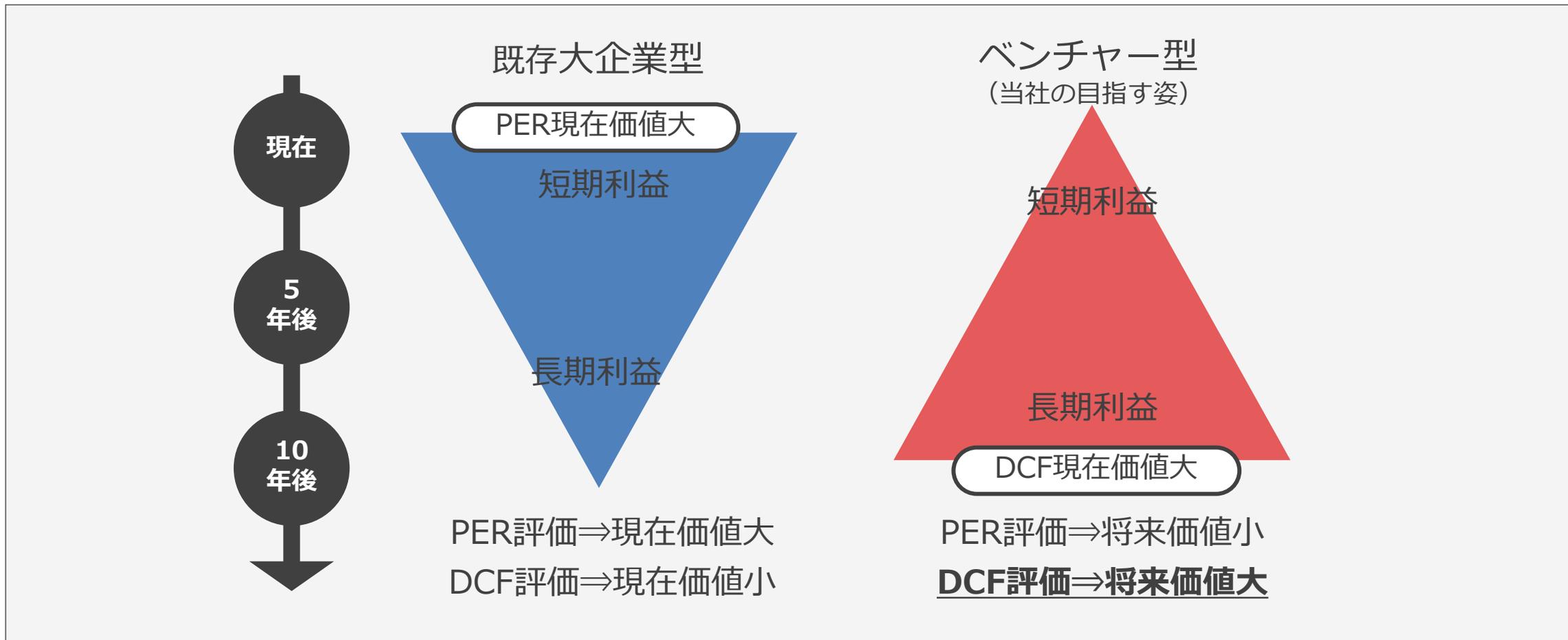
2015年3月期より取り組んできたAI事業において以下の展開ステップを考えている。





# データセクションの経営方針 = DCF基準での現在価値最大化

直近の受託売上による短期的な利益最大化ではなく、長期的な成長を重視し、人材・開発に積極的投資



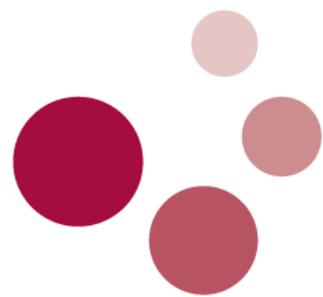


Vision : What we will be ...

**人々の暮らしを世界中で  
バージョンアップし続ける**

Mission : What we should do...

**Change the Frame  
テクノロジーで実社会に変革をもたらし、  
新しい暮らしをつくりあげる**



**DATASECTION**



- 本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しで、リスクや不確実性を含んでおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。